CAGLIERO 11
カリエロ

190 2024年 10月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

友人の皆さん、

私のサレジオの旅は、25年近く前に宣教活動への呼びかけに応えたことから始まりました。自分の深い望みを満たす一時的な旅だと思っていたのですが、それはまもなく人生をかける情熱、自分の信仰を表現し生き抜く道となりました。でも、どうしてそうなったのでしょうか。絶えず自分自身をささげたいという望みを促すものは、何なのでしょうか。サレジオ会員と共に奉仕する信徒宣教者の大多数にとって、何度も戻って来て奉仕を続け、つながっていたいと感じさせるものは何なのでしょうか。これらの問いへの答えは、はっきりしないこともあったのですが、「共にする使命」という今月の教皇の祈りの意向によってかなり明確になりました。

ドン・ボスコはさまざまな意味でー 教育へのアプローチであれ、若者に力をつけること、あるいは社会正義においてであれ、時代を先取りしていました。彼は革新的な人でした。ドン・ボスコが残した永続的な革新の一つは、サレジオ会が奉仕職を遂行する際の協働的な精神です。私自身、信徒宣教者として何度も戻って来たのは、ただ特定の奉仕職のためではありませんでした。この、共にする使命の感覚のためでした。この協働のうちに、サレジオの精神は生きています。そのすばらしさをほかの人々と分かち合うことを、私はいつも楽しみにしているのです！

ドン・ボスコのうちに

■ **アメリカ合衆国 ニューロシェル**
サレジオ信徒宣教者ディレクター
アダム・ルディン

エキュメニカル・諸宗教対話の建設者

対話は、人間だけに見られるもので、非常に重要な人間の特徴です。対話のうちに、個人やグループは意見や考え、ものの見方を交換し、違う選択肢について考え、自らの信条、意見、価値観、先入観を見直すことさえします。前提となるのは、**よく耳を傾けること、相手を尊重した話し合い、礼節をもって指摘すること**です。

神は善い方、愛であり、そのため人類との救いの対話をご自分の方から始められました。人間は自らの功徳によってこの対話にふさわしい者になったのではありません。神はこの世を愛するあまり、ご自分の御子を与えられたのです（ヨハネ3・16）。**神の人間との対話**は、すべての人への愛の呼びかけです。その呼びかけを受けとめるか、拒絶するか、一人ひとりに自由がゆるされています。対話は、イエスの宣教の中心にもありました。私たちは神の愛とイエスの教えに応え、招かれるのを待つのではなく、他者との同様の対話に取り組むよう呼ばれています。

キリストの唯一の教会はカトリック教会にあると、カトリック信者は信じています。しかし、キリストの体が分裂し続けていることの責任を、カトリック教会も共に負っていることを、私たちは認めます。過去、そして現在の不一致の罪にゆるしを**願い**、協力を促進しながら、エキュメニカルな対話を**育み**、過去の対立を乗り越え、共通にもつイエスへの信仰をよりよく**理解し**、祈りと悔い改めを通して新たな愛の交わりを**築く**よう、すべてのキリスト者を動かすのは、神の恵みです。（第二バチカン公会議公文書，「教会憲章」8；「エキュメニズムに関する教令」3, 4）

諸宗教対話は、教会によるすべての人への宣教missio ad gentesの一環ではありますが、キリスト教に改宗させる新たな方法ではありません。諸宗教対話では、さまざまな宗教を信じる人々は、信じていることの内容を明確に述べるよう奨励されます。それはキリスト者にとり、さまざまな宗教のうちにある一筋の真理の光を発見する機会でもあります。（同，「キリスト教以外の諸宗教に対する教会の態度についての宣言」2）

エキュメニカル・諸宗教対話には4つの種類があります：**生活の対話**（家庭、職場、余暇において、違う宗教の人々と日常生活を分かち合う）；**行動の対話**（より良い社会を目指して共通善を促進するため、共有する宗教的・倫理的価値に基づき、協力して働く）；**神学的交流の対話**（互いに共通するもの、また宗教的な違いがどこにあるのか、専門家による対話）；そして、**宗教体験の対話**（それぞれの宗教の伝統のうちにある、祈りや霊的実践の実りを分かち合う）です。

宣教する弟子は皆、対話の建設者でなければなりません。私たちは、耳を傾ける、分かち合う、振り返るという歩みに全面的に取り組みながら、救いの対話を率先された神の、力強く信頼に足るあかし人になるのです。

■ **宣教顧問**
アルフレッド・マラヴィジャ神父 SDB

振り返りと分かち合いのために

■ **エキュメニカル・諸宗教対話について、これまでどのように理解していただろうか？　今、どのように理解しているだろうか？**

■ **日常生活のなかで、積極的に対話を育むにはどうすればよいだろうか？**

一人ひとりとの出会いにおけるサレジオの使命

ラファエル・ベハラノ・リベラ神父, SDB

私はコロンビア出身のサレジオ会員です。コロンビアでは、青少年司牧のさまざまな分野で、特に「弱い立場に置かれ疎外された青少年司牧活動」のために働きました。その活動を通して神の愛を学びました。現在は、ローマのサクロ・クオレで、青少年司牧部門で働き、ドン・ボスコのカリスマの偉大さを学び、目の当たりにしつづけています。

ラファ、今、ローマにいるあなたにとって近い存在になった教皇フランシスコは、シノダリティー、共同責任、参加、共にする使命といった考えを強調しています。あなた自身にとって、これらはどのような意味をもっていますか？

サレジオの使命は、教会の営みへの参加において、司牧のあらゆる領域において、これらの概念の具体的な表現です。私たちは司牧教育共同体で、権利を侵害された人々のためのプログラムを差し出すよう呼ばれています。一人ひとりを尊重することに基づく歩みを生み出し、社会の中で自分の場を見いだせるよう若者に同伴するプログラムです。そのために私たちは、あわれみ深い者となり、相手に共感し、相手を思い、健全な、皆を受容する人間関係を築かなければなりません。そのような関わりは、私たちが暮らす社会が人間らしい温かさのある場となるよう、すなわち社会が友情に基づいたものになるよう、活気づけます。社会的友情、この言葉のうちに、教皇フランシスコが提起する考えは集約されます。

これらの姿勢をよりよく生きるために、サレジアンとして、私たちは何ができるでしょうか？

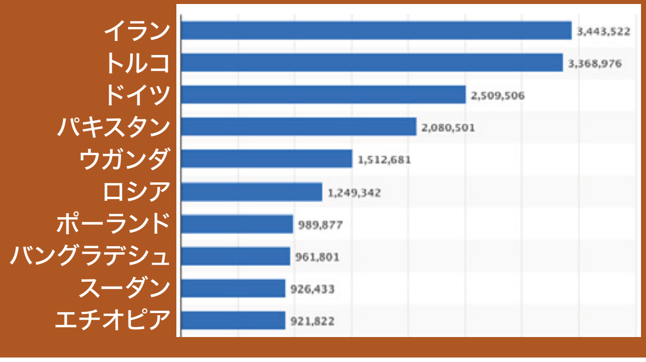
私たちは、実践的であった人の子らです。この人は、若者の救いが雲の彼方のことではなく、今、ここでのことだと理解していました。それは個々の人を犠牲にして顧みないような文化のなかで、若者が自由を手に入れるのを可能にするスキルに結びついています。したがって、サレジオの視点から社会的友情について考えることは、私たちが毎日出会う人々のことを考えるということです。私たちは一人ひとりとの出会いのなかで、具体的な人から成るあの聖なる空間を見いだします。それは、一人ひとりが能力の成長を通して人格的に力をつけるよう、同伴するための出発点です。

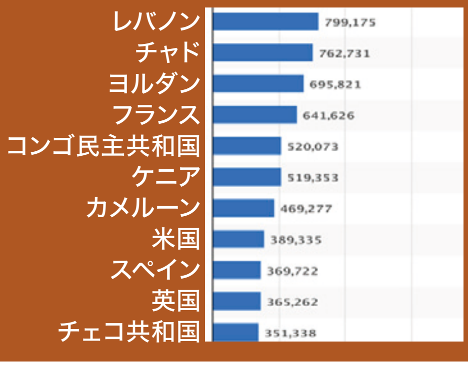
この司牧的な枠組みに入るのを難しく感じる宣教師もいるようですが、どうしてだと思いますか？

一部のサレジオ会員は、いまだに計画をもたずに、単独のメッセンジャー、活動家として行動するメンタリティーにとどまっているのだと思います。さまざまな分野における会の指針はこれらのリスクを認識し、サレジオ会員にそれを意識し、なくしていくよう、勧めています。各会員はいずれかの管区に所属し、その管区で共にする使命を生きるために、シノダリティーと参加の実りである「司牧計画」の一員となります。すべてのサレジオ会員は、会憲を宣教的な観点から読み解いたものである「青少年司牧の枠組み」の指針を実践しながら、神の愛のしるしとなるよう呼ばれています。

フォーラム

難民受け入れ国 上位ランキング 2023年現在





出典：www.statista.com

10月 サレジオ宣教の祈りの意向

共にする使命のために

コロンビアのために

コロンビアのサレジオ会が、ほかの国々から移住する兄弟姉妹を迎えるため、常に開かれていますように。

司祭、修道者、信徒が使命を共有することへ導くとともに、責任を共に担うこと、参加の促進、一致の交わりのうちに表されるシノドス的な生き方を、教会が、ひきつづきあらゆる方法で支えますように、祈りましょう。｜教皇フランシスコの祈りの意向｜